

●東日本大震災での爪痕がまだ多数残っていますが、毎日車を利用する者としては、早急に道路の整備をして頂きたいです。

また、霞ヶ浦の土手沿いの通りにもゴミなどが目立ちますので、不法投棄等の取締りにも徹底して頂きたいです。

無駄な森林伐採や、景観を崩すような山削りをやめ、緑豊かでのどかな景観を残しつつ、人々が集まる地域づくりに取り組んで頂きたいです。  
(20代・男性)

●私は、行方市に生まれ育ち65才になりました。50代で妻が病に倒れて以来、家業を息子に譲り、介護の日々を送っています。妻は体に後遺症があっても、逆に笑顔で接してくれました。その間、私も大病を患い入退院の中で落ち込む日もありましたが、ケアマネージャーさんからの助言や指導を受け、デイサービス等の制度を利用して暮らしています。市には、形は違っても介護に追われる方も多いと思います。「ひとりでは悩まず」の制度を活用してはどうでしょうか。介護者が疲れては、良い介護はできません。

また、市域の方々との交流を密にし、孤立しないことを心掛けていますが、生活が別棟なので市の広報物が届かず、情報が不足する面もあります。希望者だけでも配布して頂ければ幸いです。  
(60代・男性)

●地元の小学校の下の川が、大雨の度に道路まで水が押し寄せ冠水してしまっています。子供達の通学路まで水であふれ、泥につき、先生方は手分けして通学路変更や安全確認されています。しかし、子供たちの不安そうな様子を見ると何とかならないものかと思ってしまうです。  
安全な登下校を考えると心配になります。統廃合に話も進んでいると聞きますが、何か対策はないものでしょうか。  
(40代・男性)

## ちょっとひと言!!

# 市民の声

広報委員が市民の皆さんに、行方市に寄せる思いをインタビューしました。



●市の放課後学童保育を利用したとき、以前の利用料は、一ヶ月三千元、夏休みは一ヶ月五千円でした。ところが昨年度より利用料は一ヶ月五千円、夏休みは一ヶ月一万円と、何の説明もなく値上がりしました。子供の多い家庭では、支払う金額の家計の負担は大きいです。わが家は、

日中の仕事で不在が多く子供たちだけで自宅の留守番をさせましたが、防犯面を考えると不安です。

兄弟姉妹の割引や、利用料の一律化など、大人たちが安心して子供を預けて仕事に行ける、家計の負担にならない程度の利用料の見直しをお願いしたいと思います。  
(40代・女性)

●広報とは、ひろく知らせることで。市民が行方市の状況・行政情報を知る機会を、市報「なめがた」であり、行方市議会の情報は「行方市議会だより」が一般的です。行政を身近に感じ、議会を自分達のもの、身近な存在と思えるには、それらを知る機会が必要です。新聞等マスコミの取材を受け、積極的な情報提供で報道してもらうなど、情報発信の方法は様々です。それ以上に、身近で大きな存在でもある「広報誌」の充実があります。いかに市民に伝え、読んでもらえるかの工夫が望まれます。広報担当者の健闘を期待しています。  
(60代・男性)

●震災で北浦から大洋に向かっていた橋が落ちてしまい、毎日不便な生活を送っています。今まで当然のように過ごして来た私は、物の大事さや難さを忘れかけていました。人は、余りにも物が多く有りすぎて何が一番必要か考えさせられます。  
今回の震災で、多くのことを学び気付かされた気がしました。  
一日でも早く橋が出来ることを祈っています。  
(50代・女性)

## 編集後記

平成23年3月11日、東日本大震災により被害を受けられた市民の皆様によりお見舞い申し上げます。

今年4月、行方市議会議員の選挙が行われ、これまでの24人から20人と議員定数が是正されました。9月9日から開催された第3回定例会においては、平成22年度決算審査が行われ、それぞれの分科会で慎重な審議がされ、本会議での可決認定となりました。

また、近年の行方市では人口減少が続く、議会の中でも話題にされる機会が増えていきます。行政も、人口減少に歯止めをかけるため、定住型住宅の促進や結婚対策として「畑で婚活」など色々な事業を企画していますが、なかなか成果が得られず低迷しています。この難しい問題を乗り切り、新しい視点で成功させるため、市民の皆様にも、様々なご意見やご提案をお願いしたいものです。

結びに「議会だより」の一層の充実に努めて参りますので、皆さんのご協力をお願いいたします。  
(大原功坪)

### 広報委員会

- 委員長 高橋正信
- 副委員長 栗原 繁
- 委員 大原功坪 小林 久
- 鈴木 裕 鈴木周也